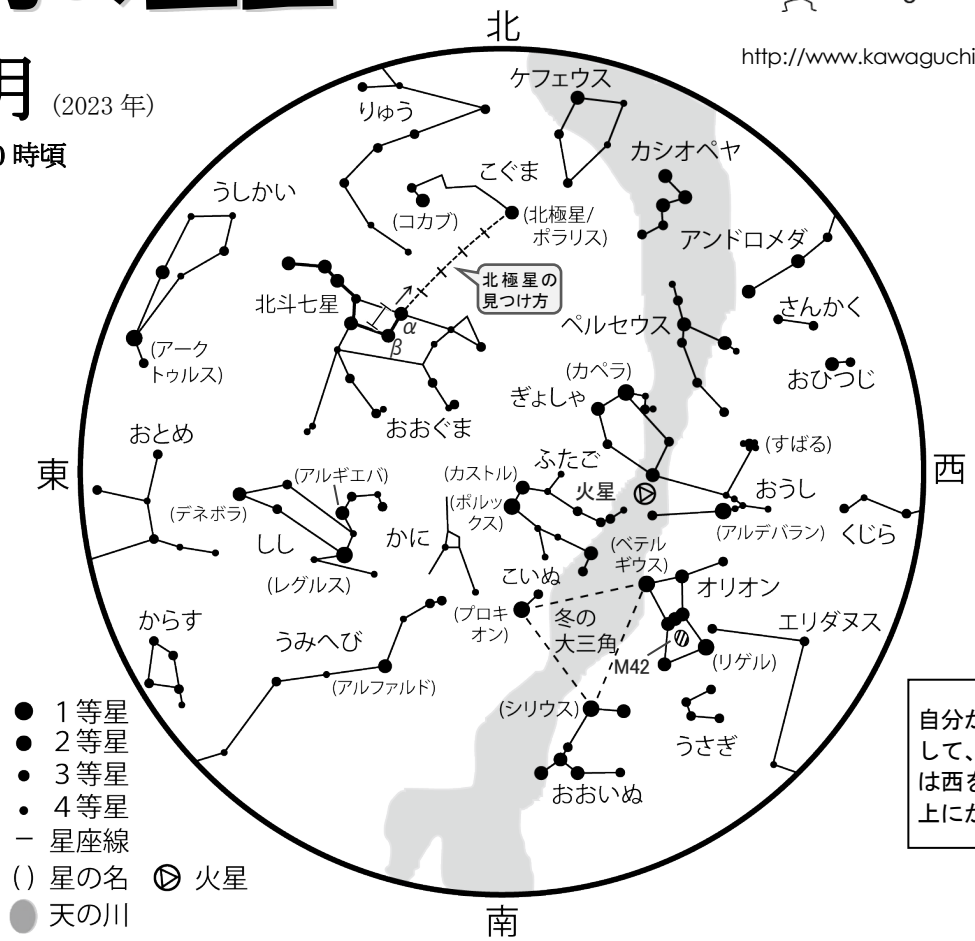
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum/

3月 (2023年)

中旬 20時頃



星図の見方

自分が見ている方角を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月　　齢　○満月 7日、◑下弦 15日、●新月 22日、◐上弦 29日

惑星情報　金星 日の入後 西(うお→おひつじ座 −4等)　火星 夜のはじめ頃 西(おうし→ふたご座 0→1等)
木星 日の入後 西(うお座 −2等)※中旬まで

☆金星・木星の接近と春の訪れ

21日は昼夜の長さがほぼ等しくなる「春分」。以降、秋分までは昼間の方が長くなり、季節の分かれ目と言えます。星空も存在感のあった冬の星座が西へと移り、春の星座が少しずつ台頭する頃です。

まずは、上旬の日没後（18時半〜19時頃)、接近中の金星と木星が際立つ西の空に注目しましょう。その距離が最も近いのは2日で、その後は日に日に離れていきます。木星は徐々に高度が下がり、下旬には観測が難しくなる一方、金星は5月末まで高度を上げていき、7月中旬までは観望好機が続きます。

西から南の空にかけては、冬の大三角やふたご座のカストル（2等）とポルックス（1等）など冬の星座の星たちや火星も見つけられます。東の空には、レグルス（1等）やデネボラ（2等）が目印の「しし座」や北斗七星が目立つ「おおぐま座」など、いよいよ春の星座が昇ってきました。

☆星の道しるべ〜北極星を見つけてみよう〜

「北極星――こぐま座α(アルファ)星（ポラリス)」は、地球の自転軸を天にのばした「天の北極」のすぐ近くにあるため、地球が自転してもほとんど動きません(注)（右図参照)。この星を中心に星々が回って見える様子から、古くから特別視され、信仰の対象ともなりました。また、北の方角やその土地の緯度（北極星の高さは緯度を表す）も知ることもできる重要な星であったため、「子(ね)の星（子は北を意味する)」や「心星(しんぼし)」など、多くの和名も存在します。とはいえ、北極星の明るさは2等であり、特別目立つ星ではないため、北斗七星からたどる方法がおすすめです。星図のとおり、おおぐま座β(ベータ)星からα(アルファ)星へと繋いだ線をのばしていくと北極星に行き当たります。実際に北極星から北の方角を確かめましょう。

(注)北極星は、現在、天の北極から約0.64度（満月の見かけの大きさは約0.5度）ずれているため、自転に伴って北極星も小さな円を描くように動く。

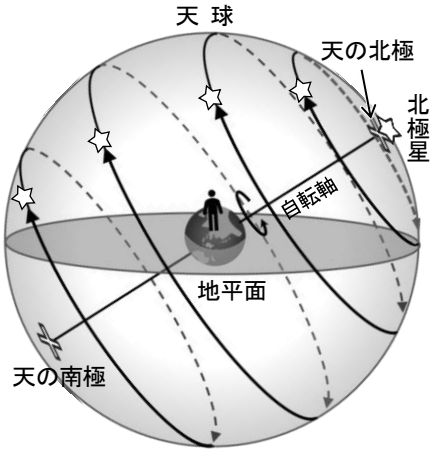


図 地球の自転に伴う川口から見た星の動きと北極星(イメージ)